データ抽出：システム
コメント作成：皮膚科

乾癬のｽﾃﾛｲﾄﾞ外用剤処方率

目的

臨床指標、学会の指標との比較

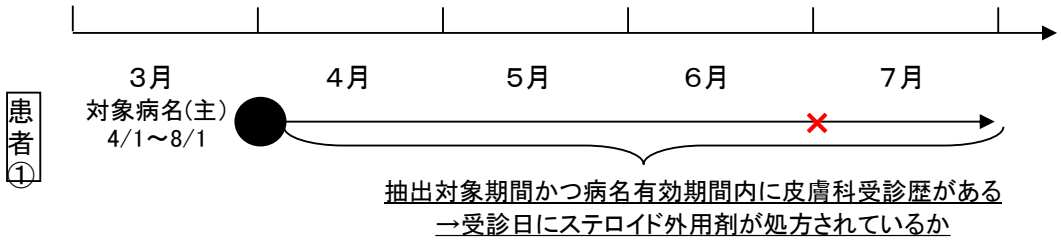
分母

抽出対象期間に皮膚科外来主病名で乾癬が登録されており、かつ1年以内に受診歴のある患者数(実患者数)

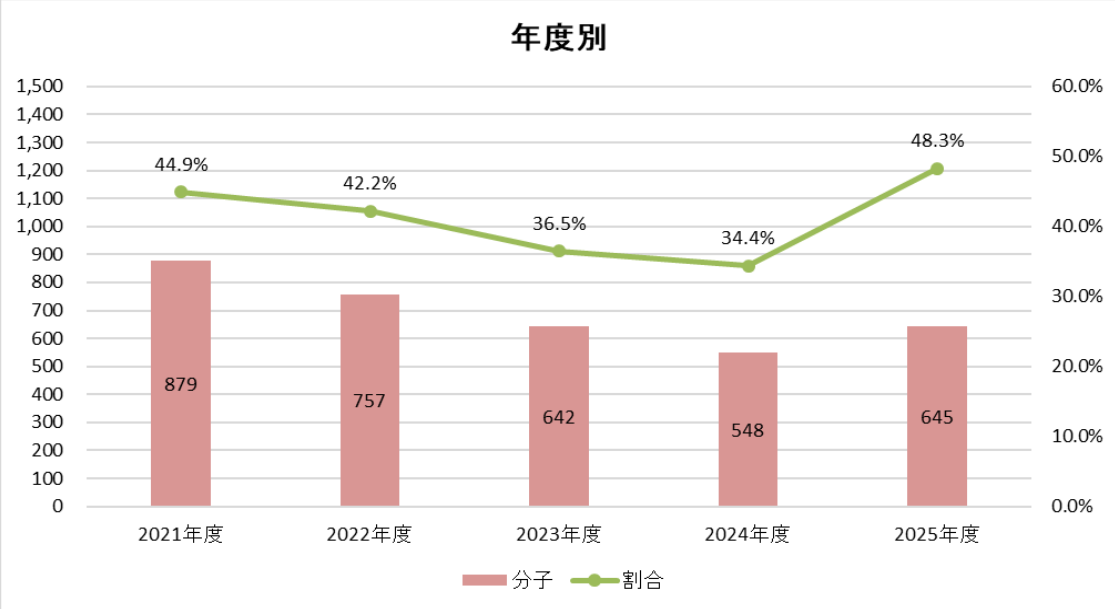
分子

分母データ中、皮膚科でｽﾃﾛｲﾄﾞ外用剤が処方されている患者数

例：主病名「乾癬」の有効期間が2010/4/1～2010/8/1で、有効期間内に受診歴がある。



抽出対象期間かつ病名有効期間内に皮膚科受診歴がある
→受診日にステロイド外用剤が処方されているか



データ抽出内容

①抽出対象期間に、皮膚科で乾癬が外来病名の主病名として有効になっている患者を抽出し、
その有効になっている期間内で皮膚科を受診している患者を抽出する。(分母)
② ②で抽出した患者で抽出対象期間内に、ステロイド外用剤が処方されている患者さんを抽出する。

＜処方率と使用率＞
例. Aさんは乾癬で皮膚科を 8/1 と 8/30 の2回受診しました。
8/1は処方されましたが、8/30は処方されませんでした。

◎処方率→ 分子1 / 分母 = 0.5 = 50%
使用率→ 分子1 / 分母 = 1 = 100%
今回は処方率の計算方法で抽出しております。

データ分析コメント

乾癬の外用治療の中心はステロイド外用薬と活性型ビタミンD3外用薬ですが、副作用の少ない活性型ビタミンD3外用薬が、ステロイド外用薬との配合薬を含めて普及したため、この数年はステロイド外用薬の処方率が低下していました。この傾向が継続するかと予測していましたが、予測に反して2025年度は使用率が上昇していました。経済的理由などが考えられますが、来年度以降の推移が気になります。